

外科 救急科

病棟 先進医療棟 1F

外来 先進医療棟 1F

連絡先 022-717-7499 (外来)



部長
久志本 成樹 教授

主な対象疾患

重症患者さんを中心としたすべての救急治療を要する患者さんを受け入れています。また、初期救急医療施設及び第二次救急医療施設の後方病院として十分に機能できるように、365日、24時間体制で診療を行っています。

●病院外心停止(心停止後症候群に対する治療も含まれます) ●外傷 ●熱傷 ●重症感染症(敗血症)や特殊感染症(ガス壊疽、壊死性筋膜炎、破傷風等) ●急性腹症 ●急性中毒 ●体温異常(熱中症や偶発性低体温症) ●急性冠症候群 ●大動脈疾患(急性大動脈解離、大動脈瘤破裂など) ●脳血管障害 ●呼吸不全 ●心不全 ●出血性ショック ●意識障害 ●複数の領域診療科にわたる重篤な病態

診療内容

高度救命救急センターでは、救急車で運ばれてくる患者さんを中心として、救急科専門医が初期診療を担当します。救急治療後は患者さんの病態に応じた診療科での治療を継続します。多発外傷や重症熱傷、心肺機能停止状態に対する蘇生と心停止後症候群の治療、敗血症、原因不明のショック、環境障害、呼吸不全に対する集中治療、急性腹症に対する外科的治療などを必要とする重症な患者さんに対しては、初期診療から集中治療までを救急科医師がリーダーとなり、関連診療科と連携しつつ診療します。

救急治療を必要とする患者さんを積極的に受け入れ、救急科スタッフのみでなく、施設の総合力を集結して、最善の治療を提供するのが我々の使命であり、当センターはこれを展開するための知識・技術と判断を集約します。

診療体制

高度救命救急センターにはCTと血管撮影装置を備えたハイブリッドERを中心とした初療スペース、専用のCTや手術室、16床の専用病床があり、救急科、外科、脳神経外科、整形外科、循環器内科、神経内科などの専門医を含む約30名の専任医師、60名の看護師、さらに専任MSW、薬剤師などがこれを支えます。

得意分野

救急医学だけでなく、サブ・スペシャリティとしての集中治療、外傷、外科、そして熱傷専門医認定施設として、我が国の指導的な役割を担います。さらに、急性期外科診療としてのacute care surgery、膜型人工肺による補助循環を用いた治療の中核施設であるECMOセンターとしての認可など、集中治療領域にも広く診療体制を整備しています。

2016年秋からは宮城県ドクターヘリ基地病院として活動を行い、県内全域に質の高い救急医療と集中治療を常に提供しており、これらすべてが得意分野です。



災害時にはDMATカーを駆使し、日本中の救援活動を行います。



2016年秋から運用を開始したドクターヘリです。県内全域の救急患者さんに現場から救急医療を提供します。



ドクターヘリは屋上ヘリポートから現場に向かい、近隣県との協力も図ります。

ご紹介いただく際の留意事項

■救急患者さんの診療では、“時間”がとても大切です。確定診断より病態の緊急性の判断と速やかな治療の開始が大きく転帰に影響します。“緊急を要する病態”であると考えられるときには適切なタイミングでご紹介ください。限りある医療資源としての救急集中治療です。状態安定後には、ご紹介いただいた患者さんをお受けいただけることをお願いします。